

シリーズ 福島市の縄文遺跡

第4回 飯野白山遺跡 (飯野町)

福島市飯野町で発掘された縄文時代中期(約4000年前)の遺跡です。

和台遺跡と女神川をはさんだ対岸にあり、竪穴住居跡の柱穴や溝とともに土器を埋めた炉、石囲いの炉がセットになった大きな炉が見つかりました。

当時は全国にも数少なく、地元考古学者の梅宮茂氏らにより「複式炉」(用語解説参照)と命名され現在も専門用語として使用されています。

昭和33年福島県で第1号となる復元住居が建てられ「飯野白山住居跡」として県指定の史跡となっています。



復元された竪穴住居



飯野白山遺跡で見つかった複式炉(昭和32年)



発掘の際には地元中学生も見学に訪れました。(昭和32年)

★★ 次回は、摺上川ダム関連遺跡を紹介します。おたのしみに。★★

用語解説

「竪穴住居」

地面を掘り下げて、そこを床として柱を建て、周囲に屋根をふきおろした住居。縄文時代草創期(約12,000年前)に出現し、平安時代・鎌倉時代まで存在します。

縄文時代には内部の壁にそってめぐらしたり、炉などの火を使う場所、貯蔵穴、出入り口などの施設があり、時代や地域によりさまざまな形のものがあ

「複式炉」

縄文時代の中期の終わり頃(約4,500年前)に東北地方の南部を中心に流行した大型の囲炉裏。土器を埋め、石を組み合わせで作られています。

土器を埋めた部分はおき火や灰を入れる場所、石を組んだ部分は煮炊きをする場所、土を掘りくぼめた部分は作業する場所と考えられています。

編集後記

昨年10月に富山県小矢部市で「縄文シティサミット」が開催されました。じょーもぴあ宮畑サポートネットワークからは総勢13名が参加し、できたての黄色のボランティアジャンパーは一際目立っていました。交流会では、原発事故の最中に参加したことに、感謝と激励の心を込めた千羽鶴が手渡され、会場からも大きな拍手をいただきました。これからも放射線不安にへこたれず、宮畑遺跡の情報発信に務めて参ります。



直径90cm! 宮畑遺跡のシンボル「掘立柱」

国史跡 宮畑遺跡

みや はた だより 第5号 平成24年3月

発行: じょーもぴあ宮畑サポートネットワーク  
編集: 公開・発信・活用協力会  
ガイドワークショップ部会 編集班

事務局: 福島市教育委員会 文化課  
〒960-8601 福島市五老内町3番1号  
☎024-535-1111 内線5375・5376

★「じょーもぴあ」とは「縄文時代を身近に感じられるユートピアのような場所」の意味です。

整備の様子をのぞいてみよう 第4回

竪穴住居と掘立柱建物を建てる準備を進めています。

平成23年度は、竪穴住居(用語解説参照)と直径70cmの栗の木を使った2号掘立柱建物を建てる準備(材料調達、材料加工、仮組み)、敷石住居の復元展示、埋蔵群の復元展示の設置が行なわれます。

今回は復元建物(竪穴住居と掘立柱建物)の建築準備の様子を紹介します。



竪穴住居の仮組み(二戸市にて)



掘立柱建物の仮組み(二戸市にて)

ふたつの建物は、岩手県二戸市で、木材の調達、木材の加工が行なわれ、復元建物の仮組み状態の点検が行なわれました。【写真②】



70cmの柱の積み下ろし(宮畑)



直径70cmの柱の樹齢は約90歳

竪穴住居は縄文時代中期(約4500年前)の縄文人の家で、床面の直径は約4.9m(畳換算で10畳分程度)です。【写真①】

仮組み点検後に材料を解体し、トラック3台に材料をのせ、岩手県から宮畑遺跡に輸送しました。現代人はクレーン車で積み下ろしをしますが、縄文人はどうやって重い柱を運んだのでしょうか。【写真③、④】

東日本大震災の影響もあり、宮畑遺跡現地での組上げ工事は、平成24年度の予定です。完成すると右の写真のような建物ができあがります。【写真⑤、⑥】



掘立柱建物(模型)



竪穴住居(模型)

じょーもぴあ宮畑の環境放射線測定値

1. 8.5マイクロバール/時間(芝生の広場、地上1m、1月17日)

【過去の測定値 2. 0.8(12月13日)、1.98(11月15日)、2.07(10月18日) 単位はいずれもマイクロバール/時間】

※ 毎週放射線量の測定を行い、その結果を福島市役所ホームページに掲載しています。http://www.city.fukushima.fukushima.jp/



# 特集 宮畑遺跡この一年

じょーもびあ宮畑サポートネットワークでは、平成23年度も宮畑遺跡に関連したイベントや活動を実施しました。

## 活動紹介（第4回）

### さまざまな研修もしています

公開・発信・活用協力会の研修部会では、「縄文の食と生活」をテーマにした研修や活動（調理のできる土器づくり、縄文土器の野焼き、縄文土器の煮沸実験、縄文土器を使った調理実験、縄文時代の道具の観察会など）を実施しました。

#### 【縄文土器の野焼き】



#### 【縄文土器の煮沸実験、調理実験】



見た目は完全な土器でも水がもれる土器もありました。不思議ですね。

粘土製の土器でも、料理に土器（土）のにおいがするわけはありません。



#### 【縄文時代の道具の観察会】



この道具で縄文人は木の実を粉にしたんですね。へこんだところは滑らかだ。

平成23年度は、東日本大震災、福島第一原子力発電所事故の影響により、じょーもびあ宮畑での屋外活動は自粛、制限した内容となりました。一方、屋内での活動となる文化祭の縄文体験補助、ワークショップの実施などは大変好評を得ました。また、東部・大波協力会、じょーもびあ宮畑協力会では、じょーもびあ宮畑グッズ作成に向けた活動を進めてきました。

#### ＜平成23年度のじょーもびあ宮畑サポートネットワークの主な活動＞

6月 露出展示発掘見学会	10月 もちずり文化祭 勾玉コーナー設置
7月 縄文探検隊の活動補助(7~10月)	11月 公開講座「上岡土偶が語るもの」(教委事業) 外部講師による観光振興・まちづくり研修
9月 縄文ポシエット作り研修 土器の野焼き&煮沸実験	じょーもびあ宮畑グッズ検討会(11~3月)
じょーもびあ宮畑ジャンパー完成	12月 特別展展示解説会
10月 縄文シティサミット in 小矢部に参加	2月 縄文土器の観察会
市内の縄文遺跡視察研修	3月 ミニチュア土偶作り (小学生対象)

縄文シティサミット in おやべ (千羽鶴の贈呈)



小矢部市民から、心温まる千羽鶴の寄贈を受けました。全国のボランティアの方々からも元気をもらい、勇気づけられました。

公開講座 ▶ 土偶が出土した東湯野地区の住民ほか、約200名が聴講しました。(教育委員会事業)



◀ もちずり文化祭 黄色いスタッフジャンパーを着て、参加者の対応です。



▼ 縄文遺跡視察研修



- ・上岡遺跡 (飯坂町東湯野)
- ・和台遺跡 (飯野町)
- ・南諏訪原遺跡 (松川町)
- ・宇輪台遺跡 (松川町) など

東部・大波協力会、じょーもびあ宮畑協力会では、外部講師による観光振興・まちづくりの研修、じょーもびあ宮畑グッズの検討会を実施し、試作品のハンドタオルとクリアフォルダが完成しました。



▲ じょーもびあ宮畑グッズ検討会

意外と難しいな。縄文人はどうやって、カゴ作りをしていたのだろう。



▲ 縄文ポシエット作り ▲

▼ 特別展展示解説会



これが本物の土偶ですか。立派ですね。

## 宮畑遺跡の発掘から整備まで

### 第4回「平成9年度の調査①」

宮畑遺跡では平成6年度の試掘調査しくつちようさの後、平成7年・8年の小規模な発掘調査を経て、平成9年度に福島工業団地の第6期造成にともなう大規模な発掘調査を実施しました。

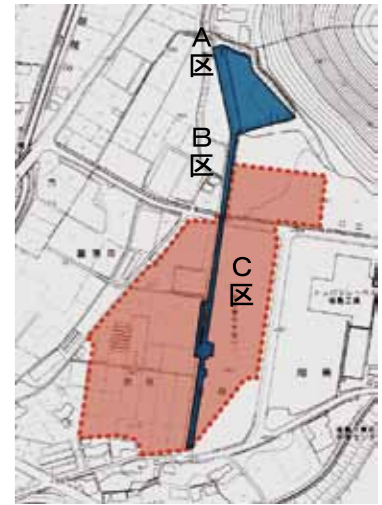
調査面積は5,000㎡で、遺跡北側の工業団地調整池の部分(A区)南側の道路部分(C区)その間の部分(B区)の3区に分け、4月から12月までの約9ヶ月間発掘を行ないました。

調査の成果は、A区で発見された平安時代のムラの跡と、B区・C区で発見された縄文時代中期から晩期のムラの跡でした。

特に、C区を中心とする縄文時代のムラからは、中期から晩期にかけての多数の竪穴住居跡以外にも、福島市内では茂庭地区でしか発見されていない敷石住居跡や、子供のお墓である多数の埋甕が見つかりました。

特に、直径90cmの柱が立てられていた柱穴の発見は、その後の宮畑遺跡の運命を大きく変えるものでした。

次回はその成果を詳しく振り返ってみましょう。



平成9年度に調査した範囲(水色)と平成15年度に史跡指定された範囲(赤色)



平成9年度の調査の風景 細長い調査区(C区)